

⚠️ 悪質業者にご注意ください

水回り修理に関する高額請求などの被害・トラブルが発生しています。修理費用は、作業内容や時間などにより大きく変わりますので、本当に必要な修理なのかを考え、複数の業者に見積を依頼するなど慎重に対応するようにしましょう。

- 広告などに表示されている料金は鵜呑みにせず、細かい所も確認する。
- 冷静に料金や作業内容を確認し、納得できない場合はきっぱりと断る。

下水道管路図のウェブ公開を開始しました。

これまで来庁した場合のみ閲覧・出力が可能であった下水道管路図が令和4年7月1日より、ウェブ上での情報提供を開始しています。詳しくは上下水道局ホームページをご覧ください。

健康のため水を飲もう

水とからだのマメ知識

からだの大半が水分でできているヒトにとって、「水を飲む」行為は健康維持に欠かせません。ご家庭ですぐに飲める安心・安全な水道水で、手軽に水分補給をしませんか？

POINT 1 1日に不足している水分は1.2L。

私たちは普段生活しているだけでも、1日に2.5Lもの水分が失われています。そのうち食事や体内でつくられる水の量は1.3L。意識してこまめに水を飲まない、1.2Lは不足してしまいます。

毎日**2.5L** もの水が失われています！

POINT 2 水分不足は健康に大きく関わります。

水分摂取量が不足すると重大な事故や健康障害をきたす可能性があります。スポーツ中の熱中症や、脳梗塞、心筋梗塞なども水分摂取量のリスク要因の一つとも言われています。

5% 失うと 脱水症状や熱中症などの症状が現れます。

10% 失うと 筋肉の痙攣、循環不全などがおこります。

POINT 3 あと2杯、水を飲みましょう。

私たちは、実は入浴中や就寝中にもたくさんの汗をかいています。日頃から、健康のためにこまめに水を飲むことが大切ですが、「目覚めの一杯」「寝前の一杯」のあと2杯の水を飲む習慣をつけましょう。

出典：厚生労働省 HP「健康のため水を飲もう」推進運動

発見！ 姫路の上下水道

島の暮らしを支える、家島の海底送水管

本市の家島群島では昔から水の確保に苦労し、昭和50年代頃まで本土から船で水道水を運んだり、海水を淡水に変える施設などで島民の水需要をまかしていました。しかし、水を使える時間は限られており、1日12時間の断水もおこっていました。その後、水の安定供給のため、海底送水管の布設が計画され、昭和59年に本土から家島本島への13.4kmの送水管が完成し、その後平成12年までにすべての有人島が海底送水管で結ばれました。今日も本土から水を送り続け「じゃ口をひねれば24時間いつでも水が出る」暮らしを支えています。

赤穂から家島へ水を送る送水管

水を運んだ運搬船「水道丸」(当時)

ひめじ上下水道だより

きれいな海に、澄んだ川 おいしい水を いつまでも

2022年 秋号

姫路市上下水道局

大雨から街を守る取組を進めています。

姫路市上下水道局は、SDGs に貢献しています。

水循環基本法の理念に基づき、水道事業で活用した水をしっかりと下水道事業で処理し、自然の恵みである水の利用と処理を健全に維持していきます。

- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう

SDGs 未来宣言都市



下水道で水害から街を守っています！ 姫路市の浸水対策事業



近年、全国各地で降雨の局地化・集中化・激甚化により浸水被害が発生しています。姫路市では、浸水災害から市民の「命」と「暮らし」を守るため、「流域治水」の主旨の下でソフト・ハードの両面から浸水対策を行っています。そのうち上下水道局では事業計画区域の市街化区域を対象に、雨水を「ながす」「ためる」対策と雨水に「そなえる」対策に取り組んでいます。「流域治水」とは、これまでのように河川だけで浸水対策に取り組むのではなく、流域に関わるあらゆる関係者(河川、下水道のほか、住民、企業など)により流域全体で行う治水対策のことです。

「内水氾濫」を防ぐ下水道の浸水対策

私たちが利用する下水道には、風呂・トイレなど生活排水を流す「汚水」と降った雨を河川や海域に流す「雨水」があります。内水氾濫は、大雨によって下水道の排水能力を上回る雨水が発生し、河川水位が上昇した場合に、下水道から河川や海に雨水を排除できないことにより、水路や側溝から雨水があふれる現象のことをいいます。近年頻発する豪雨への対策として、下水道では浸水対策に取り組んでいます。



ながす

雨水幹線や雨水ポンプの整備

下水道管の排水能力を増強するため、新たな雨水幹線を整備しています。また、土地の低い場所や河川の水位が高い場所で、雨水を強制的に河川へ排水するためにポンプ場の整備も行っています。



ためる

雨水貯留施設や雨水貯留タンク

公園などの地下空間に一時的に雨水を貯留する雨水貯留施設を整備しています。また、各戸の屋根に降った雨水を貯留する雨水貯留タンクの設置費用を助成しています。



そなえる

内水ハザードマップ

姫路市では事前に浸水発生に備えるため、「姫路市内水ハザードマップ」を作成しています。ハザードマップでは浸水被害想定区域や避難場所などの避難情報を記載しています。



ためる

八家川流域浸水対策プラン(100mm/h 安心プラン)事業を進めています。

市内南東部八家川流域の白浜・糸引・八木地区では、近年多発する豪雨で浸水被害が発生しています。この対策として、下水道事業では県の河川事業や地域住民の方々と連携して、浸水対策事業を進めています。この取り組みは平成29年3月に国土交通省の「100mm/h 安心プラン」事業に登録され、令和8年度完成予定で進めています。

この貯留施設では、**10,000m³**の雨水を貯留することができるんです。

10,000 m³ = 25mプール 約20杯分!



令和元年7月に完成した糸引公園雨水貯留施設

ながす

汐入川才西川放水路幹線の整備を進めています。

汐入川の upstream 地域の浸水被害を軽減するため、長さ約2.4km、内径1.5m~3.5mの放水路幹線の整備を進めています。夢前川右岸線の道路新設工事に併せてシールド機による地下掘進を行っており、本年5月にはJR山陽本線下を無事に通過しました。

曲線半径30mの急カーブを施工しました。

巨大なシールドマシンという機械で、地下を掘り進めています!



県道と久今宿線の道路下約20mに埋設されています。

その他、下水道事業で行っている浸水対策はホームページでもご覧いただけます。

姫路市 下水道 雨水事業 検索



より安心して生活できるように、様々な浸水対策が行われているんだね。